

第 61 巻の広告掲載会社名および商品名

アステラス製薬	(株)	ミカルデイス	中外製薬	(株)	ノイトロジン
第一三共	(株)	ネキシウム	大日本住友製薬	(株)	アイミクス
エーザイ	(株)	アリセプト	(株) ジェイ・エム・エス		
興和	(株)	リバロ	大塚製薬	(株)	エルカルチン
大塚製薬工場	(株)	ラコール	シーメンス・ジャパン	(株)	MAGNETOM Skyra
大鵬薬品工業	(株)	アロキシ	武田薬品工業	(株)	アジルバ
田辺三菱製薬	(株)	レミケード	(株) ツムラ		大建中湯
(株) ヤクルト本社		カンプト			

(ABC 順)

編集委員会

編集委員長：杉 山 篤

編集委員：石 井 良 和

島 田 英 昭

津 熊 久 幸

伊 豫 田 明 三 上 哲 夫

周 郷 延 雄 高 橋 寛

瓜 田 純 久 (ABC 順)

編集後記

今日は2014年5月6日であるから、モンゴル健康科学大学を訪問してちょうど1週間がたったことになる。今回の訪問は、昨年締結したMemorandum of Understanding (MOU) に基づく学生への講義、および共同研究や研究生の受け入れに関する打ち合わせのためであった。モンゴル健康科学大学医学部学生（4年生）には心臓電気薬理学に関する基礎から臨床応用までの講義を英語で行った。彼らに対する医学教育は入学時よりすべて英語で行われてきたそうだ。モンゴル語への同時通訳はまったく不要であり、質問もすべて流暢な英語で、しかも講義内容をしっかり理解した上での質問であった。英語のジョークに陽気に反応し、講義への乗りもすこぶる良い。驚きを通り越し、脅威すら感じる学生の知識レベルである。英語が理解できれば、地球上どこでも、最新の医学知識を身につけることができることを再認識し、本号の投稿論文にもあるような医学英語教育の重要性を痛感した。

さて、今回、お送りした61巻第3号（5月号）はいかがだったでしょうか。今回は略歴・送辞4編、投稿論文（資料）1編、第143回東邦医学会例会シンポジウム総説4編、連載（巻頭言、学会参加記、教室紹介、論評 各1編）である。いずれも力作だ。会員皆さまのご協力と事務局の尽力のおかげで今回も順調に編集を進めることができた。今後とも積極的な投稿をよろしく願いたい。また、本号よ

り編集委員の半数と編集委員長が交代になった。今までご尽力いただいた先生方に心より感謝申し上げます。新編集委員会は新しい時代にふさわしいスクールジャーナルのあり方を検討し、東邦医学会雑誌が今後も、多くの方の論文の発表の場としてよりふさわしい媒体になるよう努力していくつもりである。

(杉山 篤)

東邦医学会雑誌 第61巻 第3号

平成26年5月1日発行

編集兼 杉 山 篤
発行人〒143-8540 東京都大田区大森西5丁目21番16号
東邦大学医学メディアセンター内

東邦大学医学会

(振替口座 00190-6-95793)

tel. 03-3762-4151 ex. 2465/fax. 03-3762-5077

e-mail: igakukai@med.toho-u.ac.jp

http://tms.med.toho-u.ac.jp

東京都北区西ヶ原3-46-10

株式会社 杏林舎